

リハビリテーション治療学演習

[演習] 第1学年 前期 選択 2単位

《担当者名》 才川悦子 saikawa@hoku-iryo-u.ac.jp 柳田早織

【概要】

発声発語障害の病態、診断、治療に関する臨床的技術を研究的な観点から実践するために、障害学における先端的診断治療手段について論文講読ならびに実践的な技術履修を行う。

【学修目標】

一般目標：発声発語・構音障害研究の現状を理解する。

行動目標：発声発語・構音障害の各症状に対するリハビリテーションを理論に基づいて実施できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	演習の進め方を説明し、講読すべき文献の提示と履修のポイント確認の上で、今後の講義計画を調整する。	才川悦子 柳田早織
2~7	発声発語障害の医学的側面	発声発語障害の検査法、病態、治療に関する先進的技術について、論文講読ならびに機器を用いた演習を行う。 最終回にはレポートを提出する。	才川悦子
8~13	発声発語障害のリハビリテーション的側面	リハビリテーション的側面から発声発語障害の検査法、病態、治療に関する先進的技術について、論文講読ならびに機器を用いた演習を行う。 最終回にはレポートを提出する。	柳田早織
14・15	まとめ	提出されたレポートに関するディスカッションを行う。	才川悦子 柳田早織

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

演習成績 50%

レポート作成 50%

【教科書】

適宜指示する。

【学修の準備】

音声言語聴覚医学の基礎的事項ならびに発声発語障害の臨床的知識を十分に復習する。

予習は、関連の文献等関係資料を各自調査し学習すること（80分）

復習は、プリント、講義メモを活用して学習を深めること（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、保健・医療・福祉の分野において、リハビリテーション科学に関する高度な学識と研究能力を修得し、リハビリテーション科学の発展を通して社会に貢献できるというリハビリテーション科学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

才川悦子（医師） 柳田早織（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関における臨床経験および大学における教育・研究経験をもとに講義・指導する。